



うつくしい心 けんこうな身体 どりよくする子どもがいる小学校

請戸小だより

平成24年 3月15日

～遠く離れていても 心をつないでいきましょう～ 発行：請戸小学校長

「ご卒業・各学年の修了 おめでとうございます」



請戸小学校6年生18名のみなさん、もうすぐ卒業ですね。「本当に 本当におめでとう。」そして在校生のみなさん、慣れない学校で「よく頑張ったね。」一人一人の顔を見て話すことはできませんが、心からご卒業と各学年の修了をお祝い申し上げます。

さて、3.11の大震災、そして3.12の原発事故による全町避難からもう1年が過ぎてしまいました。この間、慣れない地での新しい生活に伴ういろいろな課題に立ち向かい、明日になったら何か道が開けるのではないかと期待しながら無我夢中で過ごしてきたことと思います。本来ですと、学校の顔でもある6年生の活躍ぶりを直に見つめて、その業績や成長をみんなで賞賛し、卒業の喜びを共有することができたのに、と口惜しくてなりません。しかしそれぞれの学校で活躍していることや自分の未来に向かって地道に努力している様子を伺い知る度に、私たち自身が勇気づけられたことも確かです。まだまだ、辛く苦しいことがあるかもしれませんが、この震災を乗り越えた経験をもとにいろいろなことに挑戦していく勇氣と力を身につけ、周りの方への感謝の気持ちを忘れずに羽ばたいて行って欲しいと思います。

「請戸の田植え踊り」復活・・地域芸能をつなぐ

2月26日(日)二本松市民会館において、にほんまつ伝統芸能祭が行われました。16の演目の中で特別出演として、請戸の田植え踊りが披露され、会場からは大きな拍手が送られました。また、東日本大震災で神社・請戸地区を始め、衣装や道具も全て流され、多くの被害がありました。保存会の方々と子どもたち親子、それに先輩も協力して昨年の8月に再興したことを伝えていただき、大きな感動に包まれました。



散り散りに避難している地域から集まり、練習も思うようにできない現状でありながら、一生懸命に踊っている子どもたちの姿は、可憐な中にも強さを秘め、本当に美しいものでした。きっと古くから伝わる請戸の地域芸能を今後もつないでいってくれることでしょう。震災後にいろいろな場所で踊りを披露し、これから先も数回の大舞台に立つという皆さんに心からエールを送りたいと思います。

尚、保存会の方より「踊り手 募集」についてお話がありましたので、申し添えます。

